

## 情報活用能力の育成

### I 研究の内容

今日、情報化社会が急速に進む中、学校教育においては、子どもたちに情報活用能力を育成することが急務とされている。同時に児童への指導のためには教員の指導力の向上も求められている。

本部会では上記テーマを設定し、児童の情報活用能力の育成と教員の指導力向上を目指し研究を進めた。

#### 情報活用能力のとらえ方

- ①情報活用の実践力
- ②情報の科学的な理解
- ③情報社会に参画する態度

### 1 研究の方法

- (1) 部会のテーマ「情報活用能力を高める研究」に沿った授業実践について研究し、研究協議を行う。
- (2) 主に小学校中学年の社会科を中心に、子どもが学習に利用できるような、東山梨の地域素材をCDにまとめ、デジタル教材集を作成する。
- (3) 部会員の情報活用能力を高めるための研修を行う。

### 2 研究の具体的内容

#### (1) 授業研究と検証

- ① 9月3日 第3学年 社会科「わたしたちの市はどんなところ」

授業者 渡邊光章 教諭（菱山小学校）

ア情報教育における目標

「身近にあるメディアの種類や違いに気づき、いろいろなメディアを活用しながら相手に伝えたいことを絵図や資料にまとめる。」

イ内容

本部会で作成したCDデジタル教材を授業の中で活用した。児童は身近な地域（甲州市）について調べる学習を行ったが、その一つ的手段としてCD教材を用いた。今回の授業に向けてGooglemapを資料として活用したり、動画ページを閲覧したりしながら、児童はコンピュータを操作しながらそれぞれの目的に添った調べ学習を行った。CD教材が効果的に使用され、学習の一助となることが確認されるとともに課題となる点も明らかになり有効な研究ができた。

- ② 1月28日 5学年総合的な学習の時間「情報社会について考えよう」

授業者 中村亮二 教諭（後屋敷小学校）

ア情報教育に関わる目標

「なぜ、だから、どうしたらよいだらうと自ら考え、情報化社会で主体的に対応できる考え方や態度を養う。」

## イ内容

新聞記事を活用したタイムリーな事例を活用し、携帯電話の取り扱いやプロフィールへの書き込みなどから、情報化社会で起こっている問題について、主体的に考えようという視点で授業を行った。

提示された2つの問題について、自分のこととして具体的に考えさせ、遠い話ではなく、自分たちの身近にも起こる可能性をとらえさせた。また、情報化社会の問題は、社会の中で大きな取り返しのつかない問題になっていることも理解させ、それらの問題に対して、しっかり考えて対処していくことに気づかせた。子どもたちの情報機器使用の実態や問題点を知り、それを抑止する指導について学習する必要性を強く感じる授業実践となった。

### (2) 東山梨地区の地域素材のCDデジタル教材化

- Web教材にGooglemapや動画を付加しながら修正をし、地域素材の教材を作成した。
- 中学年で利用できる社会科副読本的位置づけというテーマを設定し内容や視覚的統一性をいっそう高め、デジタル教材としてまとめた。

### (3) 情報活用能力を高める研修

Google Maps Editorの活用研修を行った。Google MapやGoogle Earthのさまざまな機能や可能性を知る機会となり、今後の指導に活用できるものとなった。しかし、使いこなせるようにするためには、地図データの数値化等の手続きも必要なので、複数回の研修も必要だった。

## II 成果と課題

### 1 成果

- 研究計画に基づいて、授業研究・地域教材作り・研修を実施することができた。特に、2回の研究授業を通して、情報活用能力を高める方法を検証できた。
- デジタル教材を活用した実践では、新しい内容を付加することで、よりよい地域素材を検証する場ともなった。
- 新聞記事をもとに情報モラルの授業を組み立てる実践では、情報モラルが重要視されているなかで、子どもたちに情報化社会に主体的に対応できる考え方や態度を養う授業であった。

### 2 課題

- 作成したデジタル教材は、授業で活用しやすくするためのバージョンアップやサーバーへの公開、部会員以外の実践等が必要である。
- 情報モラル計画づくりは、今後重要性がさらに増してくるので、実践を積み重ねながら、モデルカリキュラムづくり等に取り組む必要がある。

## III 研究の成果物

- CDデジタル教材「東山梨地区地域教材 2008年版」

(部長 田辺康仁)